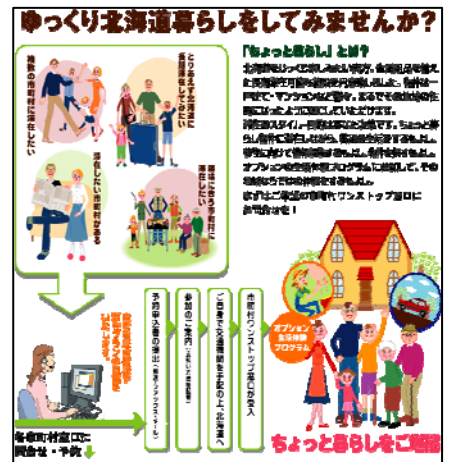


モデル事業名	「ちょっと暮らし」をベースとした、地域と滞在者の「笑顔と元気を生むマッチング」支援事業
活動団体名	特定非営利活動法人 住んでみたい北海道推進会議 特定非営利活動法人 国際社会貢献センター
ホームページ	<a href="http://www.kurasube.com">http://www.kurasube.com</a>
所属／担当者名	特定非営利活動法人 住んでみたい北海道推進会議 事務局 武田
連絡先	電話番号 : 011-251-3188 e-mailアドレス : <a href="mailto:a-takeda@do-shokoren.or.jp">a-takeda@do-shokoren.or.jp</a>
活動地域	北海道内市町村(「ちょっと暮らし」実施53市町村)

### ● 活動地域の概要

- 北海道は、大自然が豊富、安心な食などのリソースを背景に二地域居住、シーズンスティ、他地域居住等、都市部居住の方々の多様なニーズがある。また、北海道はロングステイ希望地としては、ここ数年沖縄県に次ぐ2位となっており(ロングステイ調査統計2010より)、非常に注目度が高い地域となっている。
- 一方、この取り組みを行っている53市町村の状況を見ると、過疎市町村38市町村、高齢化率25~35%、さらには人口流出といった課題を抱えている状況である。
- このような状況から、各市町村が単独でPR事業等を実施することは難しく、81市町村と260余の企業団体(2009年度)から構成される「住んでみたい北海道推進会議」が、移住・交流に取り組む市町村や企業の中間支援組織として合同PR、ノウハウの蓄積や提供などを行ってきた。
- その成果として、対象市町村における「ちょっと暮らし」参加者は2006年度の約400名から、2008年度は約700名、2009年度には1,159名と急増、平均滞在日数も24.6日と、新たなライフスタイルの創出と地域振興策の構築といった側面から取り組みが拡大しているところである。



(出典：住んでみたい北海道推進会議)

### ● 活動地域の課題

- 「ちょっと暮らし」事業を実施している多くの地域が過疎地域であり、且つ、人口流出等により各種分野での担い手及びスキルが不足している状況である。
- 一方、「ちょっと暮らし」で滞在される都市部に居住の方々は、自分の経験を地域で活かす「地域貢献・自己実現」の欲求がある。
- しかしながら現状では、滞在される都市部に居住の方々は自分の経験やスキルを地方で活かすことができることを知らず、受け入れる市町村等もそのような機会があることを知らないという課題が存在する。

### ● 活動の内容

(全体)

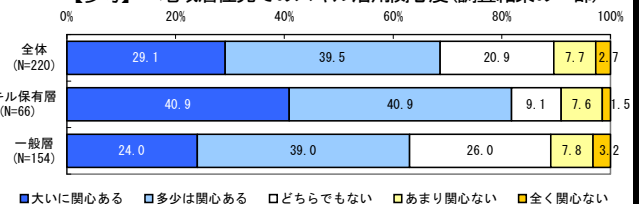
【活動①】北海道で二地域居住受け入れを行っている地域の団体に対する、都市部からの滞在者に求めるスキル、経験などで地域への貢献の希望に関する調査

- 調査期間 平成22年2月18日~28日
- 調査対象 二地域居住に関心のある市町村及び商工会議所・商工会(59市町村45団体から回答)
- 調査結果概要 「二地域居住を受け入れたことにより町に活気が生まれた」などの肯定的な意見が多く、必要なスキルについても、「把握が難しい」という回答が約5割あり、スキル把握の仕組みの土壌があると推察される。

【活動②】北海道での二地域居住を希望する都市部の方に対する、スキル・経験を活かして地域貢献をすることへの希望の内容に関する調査

- 調査期間 平成22年2月18日~28日
- 調査対象 スキル保有層及び一般層へのインターネットアンケート(計220名の回答)
- 調査結果概要 どちらの層も二地域居住先でスキルを活用することに興味を持っており、スキルのマッチングの仕組みを活用することについては、約6割の方が期待をしている結果となった。

【参考】二地域居住先でのスキル活用関心度(調査結果の一部)



### 【活動③】「ちょっと暮らし・ちょっとワーク」マッチングの試行

#### ・受入地域・実施期間等

当別町 平成22年2月3日～15日 参加者1名  
地域の特徴や生産品を活かしたブランド作りへのアドバイス

陸別町 平成22年2月15日～20日 参加者1名  
体験型鉄道公園「りくべつ鉄道」やその他体験観光の運営に対するアドバイス

黒松内町 平成22年2月17日～21日  
平成22年2月21日～25日 参加者2名  
指定管理者(第三セクター)が管理運営する施設へのアドバイス

・結果概要 参加者からは「次回も参加したい」といった肯定的な意見が多く、受け入れ側からも「有益であった」といった肯定的な意見が多かった。一方で、受け入れ側からは、受け入れ側の体制整備や受け入れ時の対応の煩雑さなどに関する意見もあった。



(マッチング実施風景 上/ 当別町、下/ 黒松内町)

#### (直近1年間の進捗など)

今回の取り組みを通して、都市部居住者にも「地域に貢献したい」というニーズが、受け入れ側にも「地域にスキルを提供してもらい、活用したい」という期待があることがデータ及び実証で明らかになった。

平成22年度は、運営方法・管理方法および費用面など解決すべき事案を検討しながら「スキルのマッチング」システムの構築に向けて鋭意取り組んでいるところである。

### ●活動の成果

#### ・全体

「ちょっと暮らし・ちょっとワーク」事業においては、全受け入れ団体から「ちょっと暮らし体験者のスキルの活用を考えたい」「地域経済活性化に有効」との回答をいただいている。また、参加者からも「今後も地域でスキルを活かしたい」「今後も参加したい」との前向きな評価をいただいている。

また、参加者や受け入れ団体からマッチングの仕組みとしての「スキルバンク」の構築を期待する声が挙がっているほか、調査結果からもスキルの活用に関心がある層が多く、潜在的なニーズがあることが明らかとなっている。

今後は、マッチングの仕組みいわゆるスキルバンクをどのような形で構築していくかが課題となっている。

#### ・直近1年間の成果など

平成22年度は、平成21年度の取り組みを受けて「地域・スキル情報バンク(仮称)」の構築に向けて取り組んでいるところであるが、下記のような課題があり、実現に向けて現在も検討を行っているところである。

### ●今後の課題及び展望

#### ・課題

スキルバンク構築に関しては、下記のような課題があり検討を続けているところである。

##### ①マーケット規模の把握

ニーズがあることは把握できたものの、マーケットの大きさが十分に把握できていないため、独立採算が可能なか検討が必要である

##### ②運営費の捻出

スキルバンクのマッチング機能としてホームページ等の制作・管理費用の捻出方法について、二地域居住希望者は平均700円程度の負担をしてもよいと考えているが、負担費用に見合う十分な情報量が提供するには広告等も行わなければならない。また、管理者の人件費も捻出する必要があり、どのようなセクターが行うべきかも含めて課題となっている。

##### ③就業情報との線引き

「ちょっとワーク」とアルバイト等の短期雇用等の情報提供との差を明確にする必要がある。ボランティアの紹介とした場合は、費用の徴収は難しいと考えられるため、運営方法等とともにパッケージで検討していく必要がある。

#### ・展望

そもそもニーズはあること、特にスキルマッチングのシステムについては、期待も大きいことから引き続き実現に向けて検討を続けていく一方、当面は、他事業とのコラボレーションや何らかの支援措置など、自立までの経済的支援が必要かと考える。多様な手段を検討し、実現に向けて取り組んでいきたい。

### ●その他

「ちょっと暮らし・ちょっとワーク」事業及び調査事業ともに、想定以上に評価が高かった。また、参加者から「自分のスキルが地域に貢献できた」ことに対する充実感について率直な感想を伺うにあたり、この仕組みの必要性を改めて認識した。実現に向けた課題は多いものの、引き続き検討を行っていきたい。